



# 学校だより

【教育目標】 学ぶ心 思う心 挑む心

令和5年度 第12号

神林中学校(☎66-5313) 令和6年3月22日

## 第5回卒業証書授与式を挙行了たしました。

3月5日 神林中学校第5回卒業証書授与式を行いました。

前日まで雪が降り積雪も若干ありましたが、卒業式当日は雲の合間から日差しも差し込み、卒業生の門出を祝っているようでした。今年度は感染症流行前と同様に、たくさんの来賓の皆様にお越しいただき、卒業生の門出を見届けていただきました。

卒業証書授与では、どの生徒もしっかりとした返事と動きで、新しい旅立ちへの決意と覚悟を示してくれました。卒業生への感謝を伝える送辞、3年間を振り返り感謝と決意をこめた答辞は、「思う心」をしっかりと伝えていました。校歌合唱では、歌詞のひとつひとつをかみしめるように歌い、涙を流す生徒もいました。卒業記念合唱では、「旅立ちの日に…」の歌詞に3年間の中学校生活への思いを重ね、堂々と歌いきり、卒業式を締めくくりました。卒業生だけでなく、どの学年の生徒にとっても、次のステージへ踏み出す節目となる爽やかな卒業式でした。

最後に、体育館前から生徒玄関までの廊下に1、2年生が並んで3年生を見送りました。拍手の中、卒業生は下級生や先生方とハイタッチや握手をしながら別れのあいさつをしていました。



## 式 辞

校長 横山 雅史

この旅立ちの日にあたり、みなさんをお願いしたいことが二つあります。ひとつは、「小さな努力を大切にする。」ということです。

山を登るとき、山頂をめざして歩いていても、なかなか山頂は近づいてくれません。焦って走っても疲れるだけです。そんなとき、山頂を見るのをやめて、目の前の道を黙々と一歩ずつ前に進みます。しばらく歩いた後、休憩すると、山頂が近くに見えます。それを何度か繰り返すうちに山頂に立つことができます。では、山頂が雲で隠れて見えない時はどうでしょう。雲の上にある山頂がわからなくても、目の前の道を一歩ずつ前に進みます。自分のペースで黙々と歩き、適度な休憩を入れて、また前に進む。

ゴールが見えなくても、やれることを地道にやることで確実に山頂へ近づきます。人生は、山を登るのに似ています。人生の目標やゴールは見えることも見えないこともあります。高校入試のようにはっきりとした目標があることもあれば、今の努力が何につながっているか分からなかったり、自分の進む道が分からなくなったりすることもあります。そんな時、魔法はありません。一気に山頂に連れて行ってくれる近道也没有。今、目の前に見える道を誠実に進むだけです。前に進むとその先に道が見えます。地道に努力を続けていると、誰かがこっちへおいでと手招きしてくれることもあります。応援してくれたり助けてくれたりすることもあります。でも、それは、自分でしっかりと前へ歩いている人だけです。「目の前のできることに誠実に向き合い、小さな努力を続ける。」皆さんにはそんな人生の歩き方をしてほしいと思います。

二つ目は、「時間を大切に使う。」ということです。時間は1日24時間、誰にでも平等に与えられています。でも、やりたいことはたくさんあり、やらなければいけないこともたくさんあります。これを思いつきで適当にやってしまうと、24時間に収まらなくなります。これからの生活では、さらにやりたいことや、やらなければいけないことが増えます。そして、大人に近づくにつれて、やらなければいけないことへの厳しさが強く大きくなります。だからこそ、皆さんには「時間を大切にして、自分の幸せのために使ってほしい」のです。やりたいことを我慢しなさいという意味ではありません。食事をとる時、バランスよく食べることで健康になります。甘いものばかり食べているとその甘さに気づかなくなります。

時間の使い方にもバランスやメリハリが必要です。つらいことはずっと続けず休みを入れる。楽しいことは時間を決めて自分へのご褒美にする。そして、すべての基盤である睡眠と食事を大切にする。そんな時間の使い方を身に付ければ、自分の自由にできる時間も増え、充実した時間を過ごすことができます。

ぜひ、自分の幸せのために、濃く充実した時間をバランスよく過ごすことができる人になってください。「飛び立て、羽ばたけ、神中 卒業生」みなさん一人一人の幸せと活躍を、心から心からお祈りします。



## 送 辞

在校生代表 富樫 百葉

今、卒業生の皆さんの心のなかには、神林中学校の校門を初めてくぐったあの日から、この校舎で過ごした3年間の様々な思い出がよみがえっていることでしょう。常に私たち後輩の前を歩き、お手本となってくださった先輩方の背中には私たちにかけがえのないものを残してくださいました。中でも思い出深いのが、体育祭や合唱コンクールなどの学校行事です。一人一人が全力になり全員で一つのものを作り上げる素晴らしさを教えていただきました。

9月の体育祭では「アイドル～最強で無敵の俺たち～」のスローガンのもと赤軍、青軍が白熱した戦いを繰り広げました。1、2年生を引っ張りながら目標に向かって邁進する姿はとてまかつよく、私たちにとって目指すべき姿だと強く感じました。

10月の合唱コンクールでは圧巻の歌声と会場全体を引き付ける素晴らしい合唱に、心が震えました。先輩方が示した存在感と会場に満ちた大きな感動は今も忘れることができません。

振り返ってみると先輩方は常に私たちのお手本であり、またいつでも頼れる仲間のような存在でもあったと感じます。そんな皆さんも今日で卒業します。

先輩方が示してくださった「最上級生としてのあるべき姿」を目指し、これからは私たちが神林中学校をさらに明るく、活気に満ちた学校にしていきます。

これから先輩方はそれぞれの道に進みます。ぜひ、神林中学校で過ごした3年間の誇りとして、自分の夢や希望に向かって進んでください。在校生一同、心から応援しています。



## 答 辞

卒業生代表 阿部 謙明



3年前の春、新型コロナウイルス感染症によって世界が暗く不安に包まれ、「思い描いていた学校生活を送れるのか」という不安を抱きながら、私達は中学校生活のスタートを切りました。不安の大きな中学校生活の始まりでしたが、新たな仲間との出会いで、私の気持ちは一変しました。どんなときも前向きに、全力で楽しもうとする仲間との生活は、すべてが新鮮で楽しくて仕方ありませんでした。世の中が暗い闇に包まれる中でも、私達の周りだけは、明るく輝いているように見えた、そんな中学校生活でした。2年生になってからは、先輩の背中を追いかけてながら、行事などを通して、協力することの大切さや、努力の大切さを学び、大きく成長することができました。そして今年は、最上級生として神林中学校を盛り上げられるように、最後の年を全力で楽しめるように、私達はひたすらに突っ走ってきました。体育祭も、合唱コンクールも、勉強も、どんなときも、そのときにできる最善を尽くし、全力で楽しもうと全員で丸となって取り組んだ1年間でした。中学校生活を振り返ると、たくさんの学びと、成長がある三年間でした。こんなに素晴らしい三年間を送れたのは、たくさんの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

在校生のみなさん、今日このような素晴らしい卒業式を準備してくれて、ありがとうございました。学校生活や行事のなかでも、いつでも明るい皆さんの元気さや笑顔は、私達を明るく元気づけてくれました。春からは学年が上がり、背負う責任も増えることと思いますが、堂々と神林中学校を引っ張っていってくれることを期待しています。

いつも私達に寄り添ってくださった先生方。先生方は、私達が苦しいときは、一緒に悩んでくれ、楽しむときは、一緒に本気で楽しんでくれるような愛のこもった方々でした。そんな神林中学校の先生たちは、私達に「神林中学校に来て良かった」そう思わせてくれました。特に学年部の先生方は、3年間お世話になった先生が多く、先生としてはもちろん、一人の人間として、先生方のことが、本当に大好きでした。3年間本当にありがとうございました。

そして、どんなときも私たちの一番の理解者として私達を一番に考えてくれた家族のみなさん。どんなに辛いことがあっても、どんなに失敗をしても、家に帰れば温かいご飯とともに迎え入れて、応援してくれた家族がいたことで、私達は安心して、勉強や部活に集中することができました。時に未熟な私達は、反抗的な態度や、思ってもいない言葉で傷つけることもあったと思います。そんなときも家族のみなさんは、私達に寄り添ってくれました。まだ直接「ありがとう」を伝えるのは恥ずかしいですが、今日はこの場をかりて、感謝を伝えたいと思います。「今まで本当にありがとう。これからも、よろしく」。まだまだ未熟な私たちですが、これからも、少しずつですが確実に、成長していきます。

最後に3年生のみなさんへ。この3年間本当にいろいろな事がありましたね。頑張るときも、ふざけるときも、何でも全力でやるこの学年は、とって楽しくて、自分がどこにいるときよりも、一番自分らしくいられるような仲間たちでした。文句を言いながらやった勉強も、先生に怒られたことも、今となってはみんなと過ごしたことのすべてが、絶対に忘れたくない大切な宝物になりました。このメンバーで良かったと心から思えるこの学年が、僕は本当に、本当に大好きです。思えば、1年生の頃から、先生が学年だよりに書いてくださっていた卒業カウントダウン。はじめは、千日以上あったのに、クラスに残り25日のカウントダウンカレンダーが貼られたときは、思い出と、寂しさで胸がいっぱいでした。そして今日、そのカウントもついにゼロになってしまいました。私は、「卒業」は大きな節目ではありますが、悲しい「別れ」の機会ではないと思います。私達が、この3年間で作り上げた思い出を、この大切な日々を、ずっとずっと忘れなければ、みんなが、どんなところでなにをしていますが、必ず私達は繋がっています。そう信じて、みんなと、新しく大きな希望への一歩を踏み出しましょう。

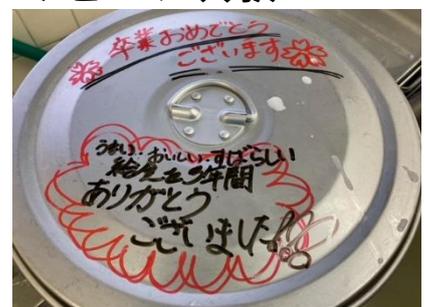
私達はこれから、3年間の思い出を忘れずに、それぞれがそれぞれの人生で、活躍することを心に誓って、新たな未来に向かって飛び立っていきます。

## 義務教育最後の給食 「思う心」を伝え合うメッセージ交換

3月4日、卒業式前日、3年生は義務教育最後の給食をいただきました。その最後の給食の食缶のフタに調理員のみなさんが卒業を祝うメッセージを書いてくださいました。

毎年心のこもったサプライズなのですが、「今年は卒業生からメッセージに返事を書いてもらいました。」「調理員一同、幸せな気持ちになりました。」と教えていただきました。

食缶のフタを通じた心のこもったメッセージの交換は、神林中に根付いた、あたたかい「思う心」の現れであると感じました。



# お世話になりました。ありがとうございました。



この度、令和5年度末の人事異動で、5名の転出がありました。  
皆さん、神林中学校のために一生懸命取り組んでいただきました。本当にありがとうございました。  
最後にご挨拶をいただきましたので紹介します。

## 富樫 洋 教諭 (関川村立関川中学校へ)

生徒の皆さんの素直さと、各家庭・地域の温かな風土に随分と救われました。「ほっこり」癒されること、「頑張ろう」とやる気をもらうことが多々ありました。すべて私の大切な財産です。頂いてばかりではよくないので、必ずお返しをします。私が、どこかでしたことが、めぐりめぐって皆さんのためになれば何よりです。そうでなくとも、誰かの幸せになれば何よりで、私も嬉しいです。生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様、その他大勢の皆様からの多大なるご支援ご指導、本当にありがとうございました。

## 佐藤 義美 教諭 (胎内市立乙中学校へ)

統合前の神納中学校から数えて6年間この校舎で、生徒とともに学ぶことができました。特に1年生→2年生→3年生→1年生→2年生→3年生と、いろいろな方々から支えられて無事に担任を2周完走し、神林中学校を卒業することができました。明るく元気な生徒に囲まれて学校生活を過ごすことができ、この学校に勤めることができ、とても幸せでした。本当にお世話になりました。

## 高橋 桜華 教諭 (県立村上中等教育学校へ)

3年間神林中学校にお世話になりました。私自身、新採用ということもあり、不安なことやできないことがたくさんありましたが、生徒とともに成長することのできた3年間でした。1, 2, 3年と学年を持ち上がることができ、とても幸せでした。この経験を活かし新たな学校でも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

## 山形 麻美 養護教諭 (阿賀野市立水原中学校へ)

神林中学校には令和3年から3年間お世話になりました。保健室から体の成長に喜ぶ姿、けがや病気と闘う姿、時には悩みを抱える姿と色々な姿を見せてもらいました。沢山のことを経験し、成長していく皆さんの姿は本当に素敵でした。これからも色々なことを経験し、心も体も健やかに成長してってください。皆さんの素晴らしいパワーが良い結果につながることを期待しています。本当にありがとうございました。

## 佐藤 孝子 介助員 (村上市立村上第一中学校へ)

念願だった神林中学校の勤務が叶ってから早いもので4年が経ちました。その間に3年間、同じ生徒さん達と過ごせたことが一番の幸せでした。私は、皆さんのことをよその子と思うことができず、色々とお声をかけさせてもらいました。卒業生からもらった私へのメッセージの中に「いつも見守ってくれてありがとうございました。」という言葉がありました。とても嬉しかったです。大変お世話になりました。

皆様のご健康と新天地でのご活躍を祈念しております。  
本当にありがとうございました！

